

## 27年2月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成27年 1月20日～ 27年2月10日

## 2. 調査実施方法

全国の国産材製材工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。  
2月分の回答企業数は15社である。

## 3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2  
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

## 4. 調査結果の概要

## ア. 国産材

## (1) 製材用原木荷動き動向 Weight. D. I.

品目		26/2月	3月	4月
入荷動向	スギ	△ 16.7	0.0	18.8
	ヒノキ	△ 12.5	△ 12.5	7.1
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	0.0	25.0	0.0
消費動向	スギ	△ 5.6	5.6	12.5
	ヒノキ	△ 18.8	0.0	7.1
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	0.0	25.0	25.0
在庫動向	スギ	△ 11.1	0.0	12.5
	ヒノキ	△ 12.5	△ 12.5	0.0
	カラマツ	△ 50.0	0.0	0.0
	トドマツ	25.0	0.0	25.0

・スギの原木入荷は、2月の減少が、3月は横ばいで4月は増加に、ヒノキは2月、3月の減少が4月は増加に、カラマツは3ヵ月連続して横ばい、トドマツは2月の横ばいが、3月に増加して4月は横ばい。  
・スギの原木消費は、2月の減少が3月、4月は連続して増加、ヒノキは2月の減少が、3月は横ばい、4月は増加に、カラマツは3ヵ月連続して横ばい、トドマツは2月の横ばいが3月、4月は増加に。  
・スギの原木在庫は、2月の減少が、3月は横ばい、4月は増加に、ヒノキは2月、3月は連続して減少、4月は横ばいに、カラマツは2月の減少が、3月、4月は横ばいに、トドマツは2月の増加、3月は横ばい、4月は増加。

## (2) 製材原木価格動向 Weight. D. I.

品目	26/2月	3月	4月
スギ	0.0	18.8	7.1
ヒノキ	0.0	7.1	7.1
カラマツ	0.0	0.0	0.0
トドマツ	0.0	0.0	0.0

・スギ及びヒノキの原木価格は、2月の横ばいが3月、4月はやや強保合に。カラマツ及びトドマツは3ヵ月連続して横ばい。

## モニターからのコメント

(原木荷動き)  
・カラマツは冬季集材時期で例年の造材を見込んでいるが、輸送車両の不足で運材が追いつかない、トドマツは使用量が少なく入荷制限しているが、システム材の入荷が始まり在庫は増加。カラマツは梱包・パレット向けに当月も堅調な需要で推移、ラミナ向けは適木不足で100%の対応は出来ていない。トドマツは羽柄材関連の出荷が低調なままで、原木在庫の増加と品傷みを懸念。  
・トドマツ入荷順調、地域によってトラック不足。3月は少しずつ暖かくなるので生産は上がる。3月は決算で入荷減らしたいが、販売する材も入れたいため在庫は横ばい。  
・スギ丸太は売れ行き悪く在庫増。  
・市場への入荷量は伸びず、毎月生産並の仕入れ。製材数量変えず、在庫総量は変えず。  
・ヒノキの入荷は価格が安値で安定し、雪等の影響もあり減少傾向。生産は通常通り、在庫は大きな変動なし。  
・ヒノキの入荷、消費、在庫は、4月頃まで今の水準で動かず。  
・降雪のため原木減少、製品売れ行き悪く単価も下げの中、各製材所も買いが入らなく安値になる。今後もしばらくこの様子が続くか？  
・丸太の入荷が増えたように思えるが、実際は冬季のため製材挽量が思うようぬ上がっていない。冬季のため機械トラブル及び丸太凍結により製材スピードを落としている。在庫は多少上向いてきたものの全体としては少ない。  
・スギの消費は、2月に入り急に落込み傾向。  
・季節要因もありスギ材は市場への出荷量が少ない、ヒノキは順調。ヒノキは柱の荷動きが極端に低調なため生産調整。

(原木価格)

- ・表面単価は変化ないが、特にカラマツは集荷量が不足のため集荷のエリアを拡大し、実質運賃が上がることでコストは上昇。
- ・トドマツは国有林公売価格が高値安定。バイオマスの影響が出るかは次年度である程度見通し立つ？
- ・スギ、ヒノキは、出材量が増えないが買い気も低く横ばい。
- ・出材が減少し、ヒノキ並材は保合。
- ・ヒノキは徐々に下がると予想。
- ・時期の良い丸太を確保するため多少強めで入札している。
- ・スギ、ヒノキとも値下げ。

## 27年2月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 2

## (3) 製材品荷動き動向 Weight. D. I.

品目		26/2月	3月	4月
生産動向	スギ	△ 12.5	0.0	7.1
	ヒノキ	△ 35.7	△ 21.4	8.3
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	0.0	25.0	25.0
出荷動向	スギ	△ 27.8	△ 11.1	18.8
	ヒノキ	△ 43.8	△ 37.5	14.3
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	0.0	25.0	25.0
在庫動向	スギ	35.7	28.6	16.7
	ヒノキ	31.3	37.5	28.6
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	0.0	0.0	0.0

・スギ製材品の生産は、2月の減少が3月は横ばい4月は増加、ヒノキは2月、3月の減少が3月は増加に、カラマツは3ヵ月連続して横ばい、トドマツは2月の横ばいから3月、4月は増加に。

・スギ及びヒノキ製材品の出荷は、2月、3月の減少が4月には増加、カラマツは3ヵ月連続して横ばい、トドマツは2月の横ばいから3月、4月は増加に。

・スギ及びヒノキの製材品の在庫は、3ヵ月連続して増加、カラマツ及びトドマツは3ヵ月連続して横ばい。

## (4) 製材品出荷価格動向 Weight. D. I.

品目		26/2月	3月	4月
スギ	柱角 KD10.5×3	△ 27.8	△ 22.2	△ 6.3
	柱角 KD12×3	△ 27.8	△ 22.2	△ 25.0
	通し柱 12×6	△ 7.1	△ 7.1	0.0
	桁角	△ 6.3	△ 6.3	0.0
	母屋角	△ 16.7	△ 11.1	△ 6.3
	タルキ	△ 18.8	△ 6.3	6.3
	間柱	△ 18.8	△ 12.5	6.3
	ヌキ	△ 12.5	△ 12.5	△ 6.3
	平割	△ 16.7	△ 16.7	△ 8.3
	ラミナ	0.0	0.0	0.0
ヒノキ	柱角 KD10.5×3	△ 37.5	△ 25.0	△ 7.1
	柱角 KD12×3	△ 37.5	△ 25.0	△ 14.3
	土台角 10.5×4	△ 31.3	△ 18.8	△ 14.3
	土台角 12×4	△ 31.3	△ 18.8	△ 14.3
	通し柱 12×6	△ 8.3	△ 8.3	0.0
	ラミナ	△ 16.7	△ 16.7	△ 16.7
カラマツ土台角10.5×4	—	—	—	
〃 梱包仕組み板	0.0	0.0	0.0	
〃 ラミナ	0.0	0.0	0.0	
トドマツサンギ	0.0	0.0	0.0	

・スギ柱角、母屋角、ヌキ及び平割は3ヵ月連続して弱保合ないしやや弱保合で推移、通し柱及び桁角は2月、3月のやや弱保合が4月は横ばいに、タルキ及び間柱は2月、3月の弱保合が4月にはやや強含みに、ラミナは3ヵ月連続して横ばい。

・ヒノキの柱角、土台角及びラミナは、3ヵ月連続して弱保合ないしやや弱保合で推移、通し柱は2月、3月のやや弱保合から4月は横ばいに。

・カラマツ梱包仕組み板及びラミナは3ヵ月連続して横ばい。

・トドマツサンギは3ヵ月連続して横ばい。

## モニターからのコメント

(製材品荷動)

- ・トドマツは受注堅調、3月は少しずつ暖かくなるので生産は上がる。生産即出荷。
- ・設備増で生産はやや増加。
- ・スギ、ヒノキは稼働日数変えず。スギは2～3月の受注が低い、ヒノキは安定。在庫総量は変えず。
- ・ヒノキの生産は通常通り、構造材は荷動き不調。
- ・ヒノキの生産は、4月頃まで今の水準で動かず。出荷は4月後半～5月ゴールデンウィーク明けまで動きが悪いと予想。受注状況に合わせて在庫管理、4月までは少ない状態で回す。
- ・冬季による生産効率の低下はあるが、春にかけては通常通りに。製品出荷は厳しい状態、電話のかからない日ある。完成品在庫が増えている。
- ・スギは出材と製品の生産、出荷がつり合いとれた状態、ヒノキは生産を絞ってもまだ難しい状況、暖かくなるにつれ荷動き回復するのではと期待。スギは120cm角、ヒノキは大半のサイズが在庫増。

(製材品出荷価格動向)

- ・カラマツラミナで一部値下げ要請があったが、下げられる状況にないので断った。運賃が上昇傾向にあるので4月にはカラマツ製材品の値上げを実施する。
- ・トドマツサンギは価格安定。
- ・スギは、売れ行き、先行き悲観的。メインの商材のスギFJ間柱が大幅値下げ。ヒノキは概ね横ばい。
- ・ヒノキは必要量だけの補充買い。
- ・ヒノキは、基本変えない、B材は下げるかも。
- ・スギは、原木高の製品安が顕著に。ヒノキは製品も安いですがそれ以上に丸太の値下がり幅が大きく、スギを挽くより採算は良いのでは。
- ・スギは相場下がり気味。
- ・スギ柱角は競合多く値下げ、通し柱は丸太が少ないため堅調、平角は相場維持。ヒノキは販売不振で値を下げるが、下げても売れない。

## 27年2月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 3

## イ. 外材

## (1) 製材用原木の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		26/2月	3月	4月
仕入動向	米マツ丸太	△ 50.0	△ 100.0	50.0
	NZラジアータ	0.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—
消費動向	米マツ丸太	△ 100.0	50.0	0.0
	NZラジアータ	0.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—
在庫動向	米マツ丸太	—	—	—
	NZラジアータ	0.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—

・米マツ丸太の仕入れは、2月、3月の減少が4月は増加に、NZラジアータ丸太は3ヵ月連続して横ばい。

・米マツ丸太の消費は、2月の減少が3月は増加、4月は横ばいに、NZラジアータ丸太は3ヵ月連続して横ばい。

・NZラジアータ丸太の在庫は、3ヵ月連続して横ばい。

## (2) 製材用原木等購入価格動向 Weight. D. I.

品目	26/2月	3月	4月
米マツ丸太	△ 50.0	△ 50.0	△ 50.0
NZラジアータ丸太	0.0	△ 50.0	△ 50.0
北洋エゾマツ丸太	—	—	—
北洋アカマツ丸太	—	—	—
北洋アカマツ原板	—	—	—

・米マツ丸太の購入価格は、3ヵ月連続して弱含みで推移。NZラジアータ丸太は2月が横ばいの後、3月、4月は弱含みで推移。

## モニターからのコメント

## (原木荷動)

・NZラジアータ丸太の入荷、消費、在庫は、年度末にしては輸出物件が増えていないため、変わらない。

## (原木価格動向)

・NZラジアータ丸太は、多少フレート（運賃）が下降するため下落予想。

27年2月分

## 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 4

## (3) 製材品の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		26/2月	3月	4月
生産動向	米マツ製材品	△ 100.0	50.0	0.0
	NZラジアータ製材品	0.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ製材品	—	—	—
	北洋アカマツ製材品	—	—	—
出荷動向	米マツ製材品	△ 50.0	50.0	50.0
	NZラジアータ製材品	0.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ製材品	—	—	—
	北洋アカマツ製材品	—	—	—
在庫動向	米マツ製材品	50.0	50.0	0.0
	NZラジアータ製材品	0.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ製材品	—	—	—
	北洋アカマツ製材品	—	—	—

・米マツ製材品の生産は、2月の減少が3月は増加し、4月は横ばいに、NZラジアータ製材品は3ヵ月連続して横ばい。

・米マツ製材品の出荷は、2月の減少が3月、4月は増加に、NZラジアータ製材品は3ヵ月連続して横ばいに。

・米マツ製材品の在庫は、2月、3月の増加が、4月は横ばいに、NZラジアータ製材品は3ヵ月連続して横ばいに。

## (4) 製材品の出荷価格動向 Weight. D. I.

品目		26/2月	3月	4月
米マツ平角		△ 50.0	△ 50.0	0.0
米マツ正角		△ 50.0	△ 50.0	0.0
米マツ小割		0.0	0.0	0.0
北洋エゾマツタルキ		—	—	—
北洋アカマツタルキ		—	—	—
NZ梱包材(割板)		0.0	50.0	50.0
NZ梱包材(割角)		0.0	50.0	50.0
NZ土木用材		0.0	50.0	50.0
その他		—	—	—

・米マツ正角の出荷価格は、2月、3月の弱含みから4月は横ばいに、米マツ小割は3ヵ月連続して横ばい、NZ梱包材及び土木用材は2月の横ばいから3月、4月は強含みに。

## モニターからのコメント

(製材品荷動き)

・NZラジアータ製材品の入荷、消費、在庫は、年度末にしては輸出物件が増えていないため、変わらない。

(製材品出荷価格動向)

・NZラジアータ製材品は、2月より多少値上げしているため次第に価格は上昇。